

3202 039

三
全

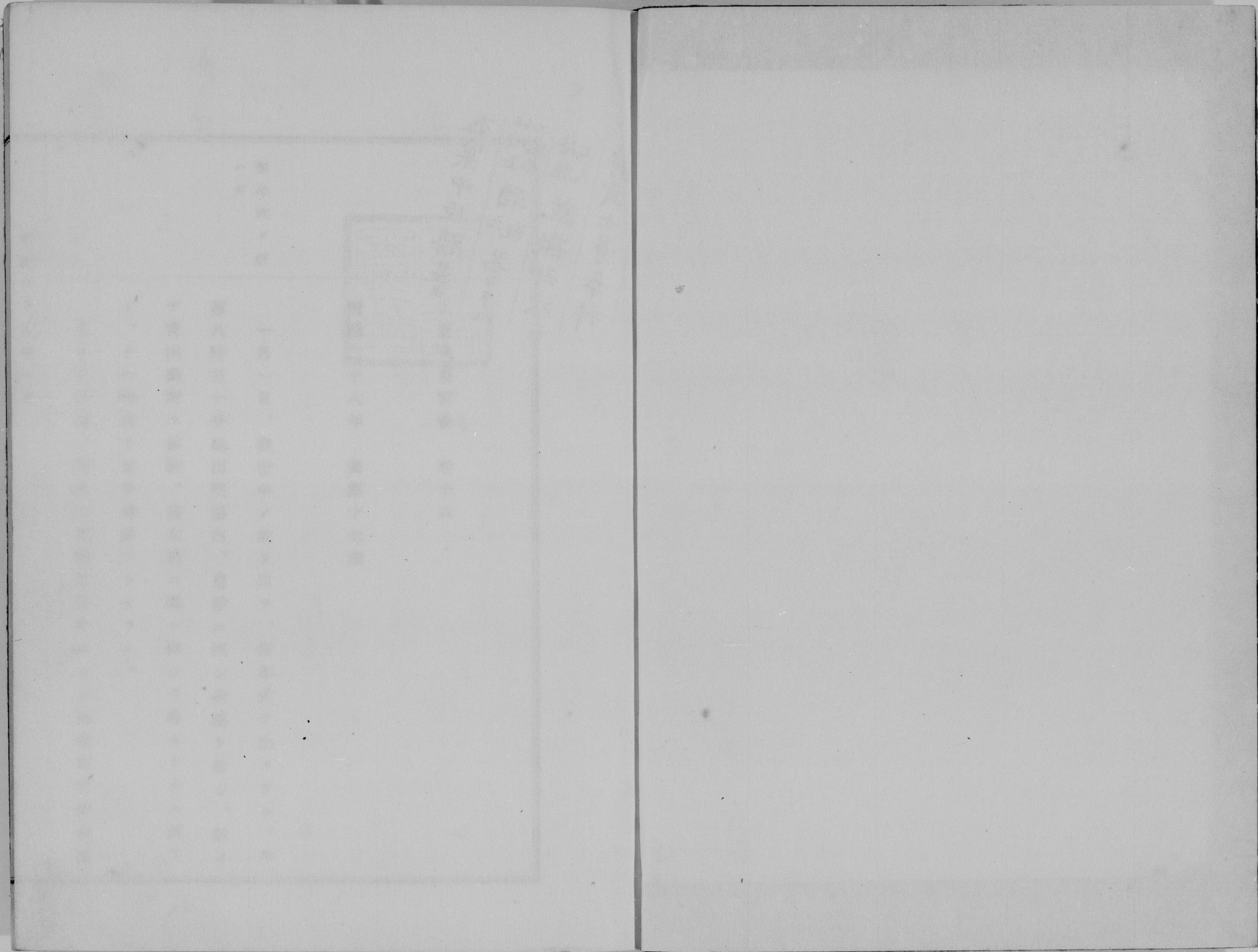
大正天皇實錄 卷十四

圖書寮	
冊號	64047
冊數	97
函號	秘 4

9
8
7
6
5
4
3
2
1
90
8
7
6
5
4
3
2
1
80
9
8
7
6
5
4
3
2
1
70
8
9

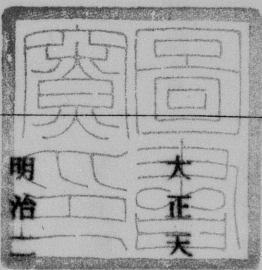
3202 040

三
年



3202 041

三
年



大正天皇實錄 卷十四
明治二十八年 寶算十七歲

新年式ヲ行
ハズ

一月一日、戰役中ノ故ヲ以テ、新年式ヲ止メラル。午
前八時三十分御出門參内、皇后ニ謁シ新禧ヲ啓シ、尊イ
デ青山御所ニ參候、皇太后ニ謁シ同ジク啓セララルル處ア
リ、十一時四十五分還啓アラセラル。
是ノ日天皇、廣島大本營駐蹕中ニヨリ御使東宮武官公

明治二十八年一月

陸軍歩兵大尉ニ御昇進

爵鷹司禰通ヲ遣シ、天機ヲ候ハシメ、又御妹昌子。房子。允子三内親王ノ御殿ニ東宮武官宮本照明ヲ遣シ新年ノ賀詞ヲ述ベシメラル。東宮侍從東宮武官日記・進退録・官年戰役御進營録

四日、陸軍歩兵大尉ニ御昇進ノ旨廣島大本營ヨリ報アリ。因リテ五日參内、皇后ニ謁シ其ノ恩ヲ啓セラル。尋イデ還啓、正午東宮職高等官ニ午餐ノ陪食ヲ賜ヒテ御慶ヲ分チ給フ。後、七日親シク書ヲ天皇ニ上リ昇進ノ恩ヲ奏セラル。因ニ官記ハ新年御使トシテ大本營ニ登營セル東宮武官公爵鷹司禰通之ヲ拜受シ、携ヘテ歸京ノ後直ニ

圖書寮

高輪御殿ニ行啓

小笠原長育病氣危篤・卒去ニヨリ御沙汰

捧呈セリ。東宮侍從長東宮武官長日記・典式録・皇后宮職日記・官報・明治二十七八年戰役御進營録
六日、午後一時御出門、高輪御殿ニ行啓、御妹昌子。房子兩内親王ニ御對面、種々御歡遊ノ後、五時二十分還啓アラセラル。猶ホ兩内親王ニ御年玉トシテ三種交魚壹折・友禰縮緬壹疋・蒔繪香函壹個宛ヲ進セラル。東宮侍從東宮報・官日記・官行啓録
七日、東宮侍從子爵小笠原長育、病氣危篤ノ報ヲ聞召シ、侍醫局勤務池邊棟三郎ヲ病床ニ遣シ病症ヲ存問セシメ、更ニ御見舞トシテ御菓子壹折ヲ賜フ。尋イデ九日卒去ニヨリ祭料金貳百圓ヲ賜ヒ、且ツ明治十九年十月以

武科御講習
始

來勤續シ、其ノ間、明宮記編纂等ノ功績多キヲ以テ、特ニ御手許ヨリ金五百圓ヲ賜フ。東宮侍從長東宮武官長日記・贈賜録・官報

八日、午後一時講堂ニ於テ武科御講習始ヲ行ハセラレ、東宮武官長男爵黒川通軌ヲシテ、軍人ニ賜ヘル勅諭ヲ捧讀セシム。東宮侍從東宮武官日記

十三日、午前七時御出門、南豊島御料地ノ内字新宿ニ行啓、鴨獵ヲ催サレシガ不獵ナリ。午後三時三十五分還啓アラセラル。東宮侍從東宮武官日記・官報・行啓録

十四日、始メテ寒稽古ヲ行ハセラレ、午前六時ヨリ四十五分間、擊劍ノ御習練アリ。是ヨリ二月十五日ニ至ル

寒稽古

圖書寮

強震

三十日ノ間、僅二十九日・二十六日・八日ノ三日ヲ除キ、毎朝御實行アリ、其ノ間ノ面數百七十一本ナリ。東宮侍從東宮武官日記

十六日、正五位稻葉正繩ヲ東宮侍從ニ任ズ。進退録・官報

十八日、午後十時五十分強震起ルヲ以テ、大本營ニハ電報ヲ以テ天機ヲ候ハセラレ、宮城ニ東宮武官長男爵黒川通軌ヲ、青山御所ニ東宮武官橋周太ヲ遣シ、御機嫌ヲ候ハシメラル。東宮侍從東宮武官日記・皇太后宮職日記

二十四日、是ヨリ先、參謀總長陸軍大將大勳位熈仁親王病氣ノ趣ヲ開召シ御痛心抄カラズ、屢々果實其ノ他ヲ

熈仁親王薨
去

進セラレ、病狀ヲ御尋ネアラセラレシガ、去ル十五日危篤ニ陥レルヲ以テ直ニ東宮亮足立正盛ヲ鎌子ナル宮別邸ニ遣シテ御見舞アリ、皇后・皇太后ノ御機嫌奉伺ノ爲メ東宮武官公爵鷹司源通ヲ宮城竝ビニ青山御所ニ遣シ給ヒ、尋イテ十六日ニハ親シク皇后・皇太后ニ謁シ、御機嫌伺ヲ啓セラル。二十四日午前一時五分親王危篤ノ體ニテ歸京スルヲ以テ、東宮大夫男爵黒川通軌ヲ新橋停車場ニ遣シテ迎ヘシメ、發喪アルヤ再ビ通軌ヲ御使トシテ宮邸ニ遣シ弔詞ヲ述ベシメラル。後、二十八日棺前祭執行ニ際シ眞神壹基・白羽二重貳疋・神饌料金五百圓ヲ供奠シ瀧

圖書寮

熾仁親王略歴

通ヲシテ代拜セシメ、二十九日ノ國葬ニハ正盛ヲ遣シテ代拜セシメラル。

熾仁親王ハ熾仁親王ノ王子ニシテ仁孝天皇ノ御猶子タリ。維新以來國事ニ盡瘁シ、征東大總督・元老院議長・左大臣・近衛都督・參謀總長・神宮祭主等ニ歷任シ、内政ニ、軍事ニ、將又、神事ニ關シ幾多ノ偉勳丕績アリ。今ヤ二十七八年ノ役起ルニ當リ、聖駕ニ供奉シ帷幄ニ參劃中、偶々病ヲ得、勅命ニ依リ鎌子別邸ニ移リ加養スル處アリシガ、遂ニ薨ズ。天皇、軫悼アラセラルルコト深ク、三日間ノ廢朝竝ビニ五日間ノ宮中喪ヲ命ジ、特ニ朝

花章頸飾ヲ賜ヒ、功二級ニ敘シ金鷄勳章ヲ授ケ、國葬ヲ以テ葬儀ヲ行ハシメラル。東宮侍從東宮武官日記・皇親

是ノ日、東宮侍從子爵勸解由小路資承・同大宮以季願ニ依リテ本官ヲ免ゼラル。後、多年ノ勤勞ヲ思召シテ兩名ニ銀香爐壹個竝ビニ金參百五拾圓宛ヲ賜フ。總務課進退録・贈進官賜録

二月三日、御乘馬ニテ午前九時御出門參内、引續キ濱離宮ニ行啓、午後二時十五分還啓アラセラル。コノ後、三月三日・五月二日ニモ亦同離宮ニ行啓ノ事アリ。東宮侍從

圖書寮

北洋艦隊降服ニヨリ御祝詞上奏

東京陸軍豫備病院ニ行啓

王子村ニ御外乗

東宮武官日記・官報・行啓録・皇后宮職日記

十三日、威海衛ニ於ケル清國北洋艦隊提督丁汝昌降服ノ捷報至ル。即チ天皇ニ電報ヲ以テ祝詞ヲ奏セラル。東宮

十六日、午後一時五十分御出門、東京陸軍豫備病院ニ行啓、皇后ニ從ヒテ傷病患者室ヲ御巡回、將校以下ニ夫々賜物アリ。五時三十分還啓アラセラル。東宮侍從東宮武官職日記・皇后宮職日記

十七日、午前九時御出門、王子村ニ御外乗、印刷局抄紙部ニ御立寄アリ。局長得能通昌以下ニ謁ヲ賜ヒ、非常

火災ニ於ケル消火唧筒使用ノ狀等ヲ台覽、尋イデ工場ノ一部分ヲ御巡覽、午後一時同所御出發、板橋方面ヲ巡リ二時三十五分還啓アラセラル。東宮侍從東宮武官日記・行啓錄・官報

二十日、從五位副島道正ヲ東宮侍從ニ任ズ。道正任ニ在ルコト僅ニシテ九月十四日免ゼラル。時恰モ御違例中ニテ恒ノ如ク賜謁等ナカリシガ、十一月二十一日稍々快癒アラセラレタルニ及ビ即チ召シテ謁ヲ賜ヒ且ツ古鏡形手釦壹組竝ビニ金五拾圓ヲ賜ヒテ在官中ノ勞ヲ犒ハセラル。總務課進退錄・官報・贈賜錄

二十四日、陸軍少將大寺安純葬儀ニヨリ、特ニ祭料

圖書寮

能久親王ト御會食

武科ノ日課
改定

金貳拾五圓ヲ賜フ。東宮侍從東宮武官日記・贈賜錄

三月四日、不日近衛師團出征スルヲ以テ同師團長陸軍中將能久親王ト午餐御會食、陸軍少將川村景明・同山根信成ノ兩旅團長ニ陪食ヲ賜フ。尋イデ二十五日出征ノ途ニ就クヲ以テ東宮武官長男爵黒川通軌ヲ青山停車場ニ遣シ親王ヲ見送ラシメ給フ。東宮侍從東宮武官日記・典式錄

是ノ日、昨年九月十二日定メラレタル武科ノ日課ヲ左表ノ如ク改メ、毎週水曜日午後ヨリ陸軍士官學校ニ行啓術科御見學ノ事ト定メ、猶ホ從來行ハセラレタル軍事學初步ヲ軍制學ト爲ス。東宮侍從東宮武官長日記・御教育錄

御達例

五日、御肩胛部ニ疼痛ヲ感じ給フヲ以テ午前六時侍醫高階經本ヲ召シ拜診セシム。時ニ體溫脈搏共ニ稍々御増

曜日	月	火	水	木	金	土	備考
課日	體操	射擊	馬術・士官 學校術科御覽	體操	軍制學	馬術	火金兩曜日ノ内午後三時卅分ヨリ學科御傍聴ノ爲メ士官學校へ行啓ノコトアルベシ
時間	自午後二時卅分 至同三時	自同二時卅分 至同三時卅分	自同零時卅分 至同一時十分	自同一時 至同一時卅分	自同二時卅分 至同三時卅分	自同一時 至同二時卅分	

圖書寮

流行性感冒症

進アリト雖モ、消化器竝ビニ呼吸器等ニハ御異狀ナキニヨリ輕微ナル感冒症トシテ御假床アラセラル。然ルニ日ニ隨ヒ御病勢漸ク増進、十日遂ニ流行性感冒症ト決ス。

天皇、廣島大本營ニ於テ皇太子重患ノ趣ヲ聞召シ、宮内省御用掛伊東方成ニ主治醫ヲ命ジ、皇后ノ大本營行啓ヲ延期セシメ、宸襟ヲ惱シ給フ。皇后モ亦御懸念アラセラルル事厚ク、三月九日正二位中山慶子・權典侍柳原愛子及ビ命婦堀川武子ニ東宮御所勤務ヲ命ジ、御看護ニ奉仕セシメ給フ。後、天皇更ニ大本營ヨリ侍醫岡玄卿ヲ歸京セシメ、方成ト協力シテ皇太子ヲ診セシメラレ、四月

御経過

ニ至リ特ニ侍醫局長池田謙齋ヲモ遣シ給ヘリ。猶ホ其ノ
 間天皇・皇后・皇太后御使トシテ屢々侍臣ヲ遣シ、種々
 御見舞品ヲ賜ヒ病狀ヲ御尋アリ。
 (御病症増進ノ徴アルヤ、三月八日ヨリ侍醫ハ勿論、常
 侍官等諸員晝夜交替ニテ不寝奉仕スルコト日アリ。) 四月
 ニ及ビテ御病勢漸ク減退、初メテ室内御運動ヲ行ハセラ
 レ、尋イデ少時内庭御運動ヲ試ミ給フモ御異狀無キニ及
 ビ、二十六日御撤床アラセラル。即チ天皇・皇后ニ電報
 ヲ以テ奏啓アラセラルル處アリ、青山御所ニハ東宮侍從
 伯爵日野資秀ヲ遣シテ事ノ由ヲ啓セシム。二十八日親シ

御全快祝宴

ク内庭南門ヨリ御庭傳ヒニテ青山御所ニ行啓、皇太后ニ
 謁シ病中ノ恩ヲ啓セラル。
 斯クテ五十餘日ニ亘ル御重患全ク癒エサセラレタルヲ
 以テ五月二日午後五時ヨリ東宮御所ニ於テ御全快ノ祝宴
 ヲ御催アリ、宮内次官花房義質以下關係諸員ニ酒饌ヲ賜
 ヒ歡ヲ分タセラル。猶ホ御治療ニ奉仕セル者ニ物ヲ賜ヒ
 テ其ノ勞ヲ稿ハセラル。
東宮侍從長 東宮武官長 日記・東
 宮侍從 東宮武官 日記・拜診録・東
 重要雜錄・侍醫桂秀馬摘尋・明治二十七八年
 役御進替録・皇太后宮職日記・皇太后宮職日記
 五月四日、午前七時御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニテ
 神奈川縣葉山ニ行啓、十時二十分葉山御用邸ニ安著アラ

葉山御用邸
ニ御轉地

三

横須賀行啓

セラル。是ヨリ御病後ノ御保養ヲ旨トシ淹留凡ソ二十二日ニ及ブ。其ノ間、十日ニハ午前七時御出門江ノ島ニ行啓、岩本たき方ニ御少憩ノ後、島中各所御遊覽アリ、還啓ノ途、鎌倉ナル國幣中社鶴岡八幡宮境内ヲ御逍遙、午後五時十分還啓アラセラル。尋イデ十七日ニハ正午御出門ニテ鎌倉ニ行啓アリ、鶴岡八幡宮ニ御参拜ノ後、境内ニ開催ノ鎌倉競馬會ニ臨ミ給ヒテ數番ヲ台覽、四時五分還啓アラセラル。十九日ニハ午前七時御出門、逗子停車場ヨリ汽車ニ御搭乘、八時五分横須賀停車場ニ御下車、逸見波止場ヨリ端艇ニテ知港事廳前棧橋ニ到リ御上陸、

圖書寮

軍艦須磨・海門・吉野・天龍・天城・葛城及ビ機械工場・鑄造工場・煉鐵工場等ヲ御見學アリ、横須賀鎮守府ニ於テ横須賀鎮守府司令長官海軍中將相浦紀道外在港海軍高等官百五十六人ニ謁ヲ賜ヒ、又、天龍・葛城・海門・天城ノ四艦ニ銀盃各壹個ヲ下賜セラル。晝餐ノ後第一横須賀丸ニ乘ラセラレ走水ニ御上陸、低砲臺ヲ御見學、更ニ花立砲臺壘門内ニ到リ要塞砲兵第一聯隊第一・第二機壘團ノ將校並ビニ同相當官等二十九人ニ謁ヲ賜フ。夫ヨリ觀音崎第三砲臺・同舊第三砲臺・同第二砲臺・同第一砲臺及ビ同第四砲臺等ヲ御巡覽、此ノ間機壘團ノ演習ヲ御

三
年

見學、三軒家ヨリ再ビ御乗船、第二・第三海堡ヲ回覽アラセラレ、午後五時二十分逸見波止場ニ御上陸、往路ノ如ク汽車ニテ還啓アラセラル。時ニ六時四十分ナリ。以上ハ主ナル行啓ニシテ、其ノ他日々ノ御慰ニハ内庭ニ於ケル釣魚アリ、海岸ニ於ケル船遊アリ、或ハ附近ナル長者ケ崎・秋谷方面等ニ御遊歩アリ、又時ニハ夕餐後、大弓ヲ試ミ給フ等、専ラ御保養ニ努メサセラルル傍ラ、少時學業ノ御復習ヲ行ハセラル。就中、十四日ニハ御修學後、東京灣要塞司令官陸軍少將黒田久孝ニ命ジテ從軍中ノ戰話ヲナサシメ之ヲ御聽聞アリ。

圖書寮

遺 啓

供奉員

斯クテ御豫定日數ニ達シ、二十六日午前八時葉山御用邸御出門、逗子停車場ヨリ汽車ニ御搭乘、新橋停車場ニテ御下車、十一時東宮御所ニ還啓アラセラル。

猶ホ御淹留中供奉ヲ命セラレタル者ハ、東宮大夫男爵黒川通軌・東宮侍從長侯爵中山孝麿・東宮侍從稻葉正繩・同副島道正・同伯爵日野資秀・東宮武官宮本照明・同橋周大・同公爵鷹司源通・東宮職御用掛三田守眞・同丸尾錦作・侍醫高階經本・侍醫局勤務伊勢錠五郎・同池邊棟三郎・東宮職出仕北小路清・同海江田幸吉・同松平武・同甘露寺受長・同西郷從善・同細川護全・同岩倉道俱。

三年

天皇・皇后
還幸啓

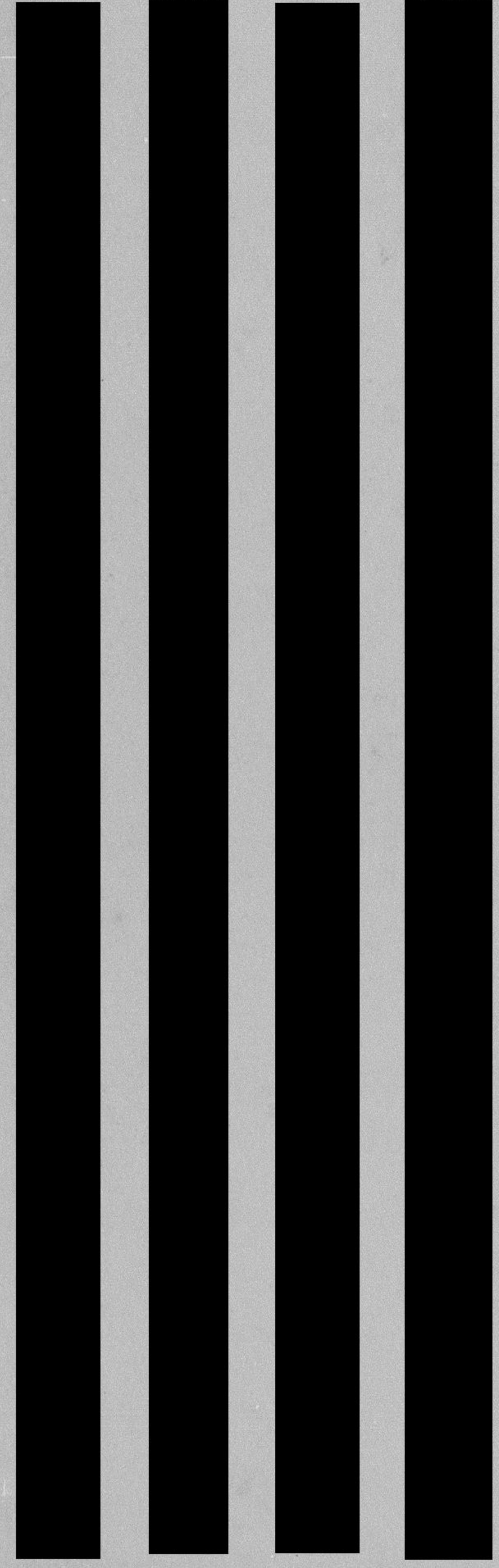
御
違
例

同谷儀一・同南部利祥等ナリ。行啓録。官報

三十日、二十七八年ノ役其ノ局ヲ結ビタルヲ以テ、義
ニ四月二十七日、天皇、廣島大本營ヲ京都ニ移シ給ヒシ
カ是ノ日京都大本營ヲ御發轅、還幸アラセラル。偶々御
違例ノ爲メ親シク奉迎アラセラレザルヲ以テ、御使トシ
テ東宮武官長男爵黒川通軌ヲ新橋停車場ニ遣シ給フ。尋
イデ三十一日ニハ皇后京都ヨリ還啓アラセラルルニヨリ
同停車場ニ御使トシテ東宮侍從長侯爵中山孝慶ヲ遣サル。
東宮侍從長東宮武官日記・東宮侍從長東宮武官長日記
六月二日、是ヨリ先、葉山御用邸御淹留中既ニ五月二

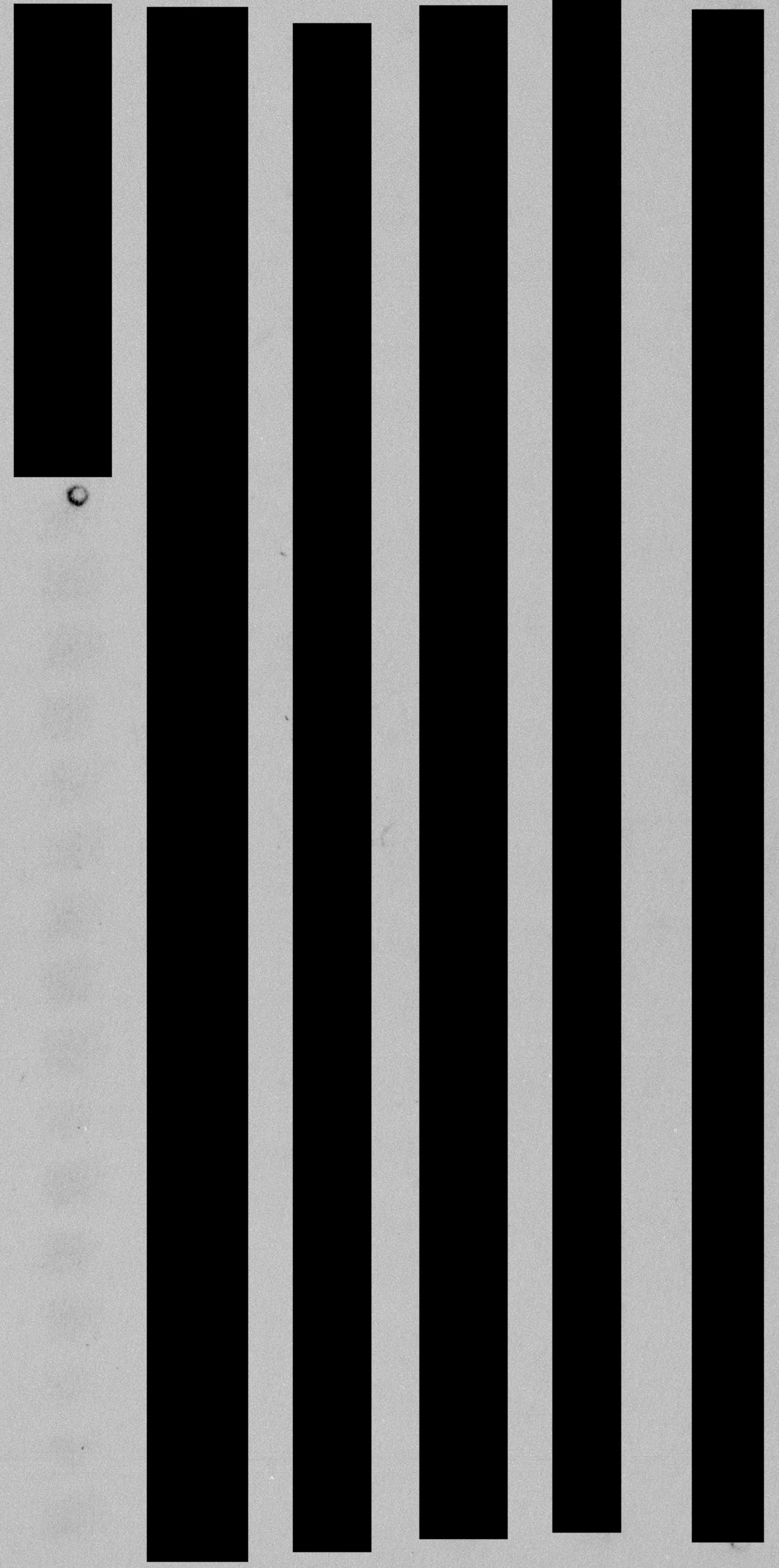
圖書寮

十一日ヨリ輕微ナル感冒ニテ御修學ヲ始メ體操・御遊歩
等ヲ止メ御靜養アリシカ癒エ給ハズ、二十六日東宮御所
還啓後、直ニ御假床アラセラレシガ、御病勢増進ノ微ア
リ。是ノ日腸壁扶斯病ト決定、拜診醫侍醫池田謙齋以下
橋本綱常・伊東方成・岡玄圃及ビ高階經本等連署シテ御
容態書ヲ上リテ曰ク、



三
年

ト。十二日更ニ天皇醫科大學雇教師獨逸國人どくとる。
 えるうゐん・べるつヲシテ拜診セシム。其ノ診斷鎌齋等
 ト異ラズ。加フルニ御餘病續發セザル限リ順調ニ涉ラセ
 ラルル旨ナリ。東宮亮足立正聲直ニ拜診ノ次第ヲ奏スレ



圖書寮

東宮職出仕
ノ更迭

バ、天皇・皇后稍々安堵アラセラル。後、御病勢順調ニ
 赴カセラルルニヨリ、去ル五月二十七日以來不寢御看護
 ニ奉仕セル常侍官ハ、本月十八日ヨリ日中二名、夜間三
 名ニテ交替奉仕シ、東宮侍從長・東宮武官長モ亦隔日ニ
 侍スル様改メタリ。然ルニ二十四日ニ至リ脾臟更ニ肥大
 アラセラレ、胸部ニ三箇ノ發疹ヲ生ジ御本病再發ノ徴ア
 リ。拜診録・重要雜録・御直宮
 御養育掛日録・侍醫局日誌
 七月十二日、東宮職出仕南部利祥ノ願ヲ許シ本職ヲ辞
 ズ。尋イデ九月三十日利祥ヲ召シ謁ヲ賜ヒ、且ツ七寶側
 銀時計壹個・斜子羽織地並ビニ仙臺平袴地各壹反ヲ賜フ。

御病床ヲ赤坂離宮ニ移ス

後、十月十二日東宮職出仕松平武・同西郷從義・同細川護全・同岩倉道俱・同伊達新之助・同谷儀一ヲ免ジ、同十六日建部光磨ヲ、同二十一日子爵酒井忠勇・同土屋正直ヲ東宮職出仕ト爲シ、同日、武以下元出仕タリシ者五名ヲ召シ、謁ヲ賜ヒ且ツ七寶蓋付袂時計各壹個竝ビニ白斜子羽織地及ビ仙臺平袴地各壹反宛ヲ賜フ。又儀一ニハ忌引中ノ爲メ參殿セサルヲ以テ後日同様ノ物ヲ賜ヘリ。

總務課進退録・官員進退録・東宮侍從東宮武官日記・官報

十三日、御發病以來日子ヲ經サセラルル事既ニ七週間餘、而カモ脾臟ノ硬化依然タルヲ以テ、從來ノ御寢所ハ

圖書寮

高輪御殿ニ御移徙

漸ク不便ヲ覺ユル事尠カラズ。即チ赤坂離宮内二階ニ御移シ奉ルノ議アリ。是ノ日室成レルニヨリ午前十時五十分御寢ノ櫛擔架ニテ移ラセラル。後、二十七日ニ至リ始メテ室内御運動ヲ試ミ給フ。拜診録・東宮侍從長東宮武官長日記

八月八日、午前十時御出門、高輪御殿ニ御移徙、同四十分安著アラセラル。御服裝ハ洋服ヲ召サセラレ、馬車ニハ東宮大夫男爵黒川通軌及ビ侍醫岡玄卿陪乘シ、東宮侍從稻葉正繩・東宮武官宮本照明ヲ始メ宮城ヨリ差遣セラレタル侍從試補廣幡忠隆等供奉ス。御著後、皇后宮大夫子爵香川敬三・皇太后宮亮子爵高辻修長・典侍室町清

池田謙齋ノ
獻言聽許

子。權典侍柳原愛子及び中山磨子ニ謁ヲ賜ヒ、御假床ノ設ケアリシモ横臥アラセラレズ、御機嫌頗ル麗ハシ。因ニ御移徙ノ議ハ去ル七月二十四日、侍醫局長池田謙齋ヨリ侍從長侯爵徳大寺實則ヲ經テ御容態ヲ上申シ、且ツ御遠例既ニ九週間ニモ及び、快癒ニ向ハセラルルモ、猶ホ脾臓ノ硬化去ラズ、體温モ亦間々昇騰スルヲ以テ、御静養ノ爲メ來月十日頃高燥ニシテ空氣清澄ナル高輪御殿ニ御轉居アラセラレ、約一ヶ月ヲ經過セバ、更ニ箱根御用邸ニ御轉地、凡ソ一ヶ月間御滞在ノ上御保養然ルベキ旨ヲ奏シ、靛慮ヲ伺ヒ奉ルニ、「昌子・房子兩内親王ノ居

圖書寮

再ビ御遠例

住ニ支障ナクバ可ナリトノ御沙汰アリシヲ以テナリ。猶ホ兩内親王ハ偶々日光避暑中ニシテ、歸還ノ上ハ赤坂離宮ニ轉住アリ。

是ノ日、皇后御移徙ヲ祝シ鶏卵五拾個・盆栽貳鉢ヲ賜フ。
東京侍從長 東京武官長 日記・徳大寺實則日記・重要雜錄・官報・皇后宮職日記・皇太后宮職日記

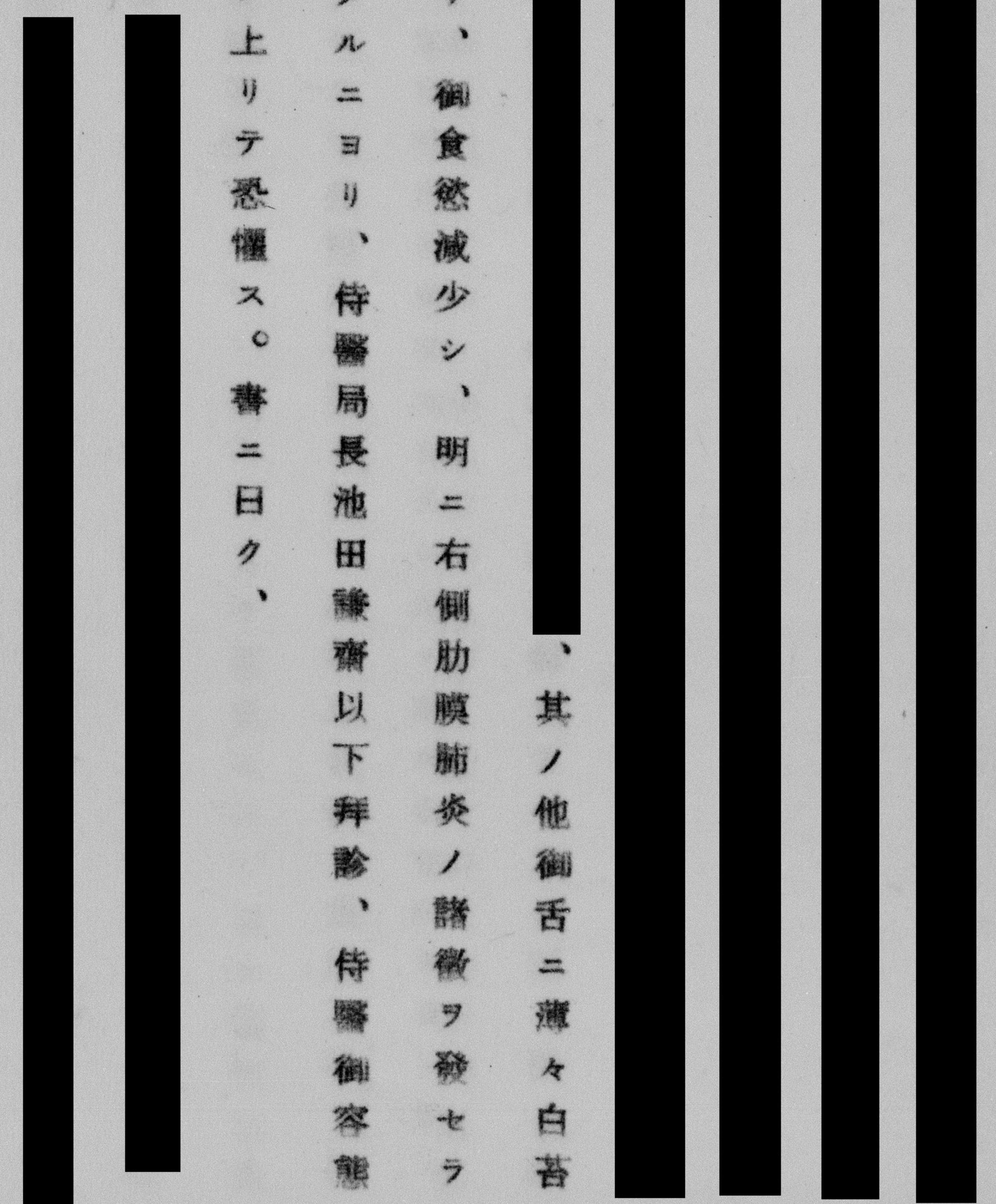
十一日、養ニ高輪御殿ニ御移徙アリテ二日間ハ頗ル御機嫌麗シクアラセラレシガ、昨日午後三時ニ至リ頓ニ御發熱アリ、三十八度五分ヨリ夜半三十九度ニ達シ、御脈搏・御呼吸隨ヒテ増進シ、

三年

明治二十八年八月

右側肋膜肺炎ニ罹ラセ

、其ノ他御舌ニ薄々白苔アリ、御食慾減少シ、明ニ右側肋膜肺炎ノ諸徴ヲ發セラレタルニヨリ、侍醫局長池田謙齋以下拜診、侍醫御容態書ヲ上リテ恐懼ス。書ニ曰ク、

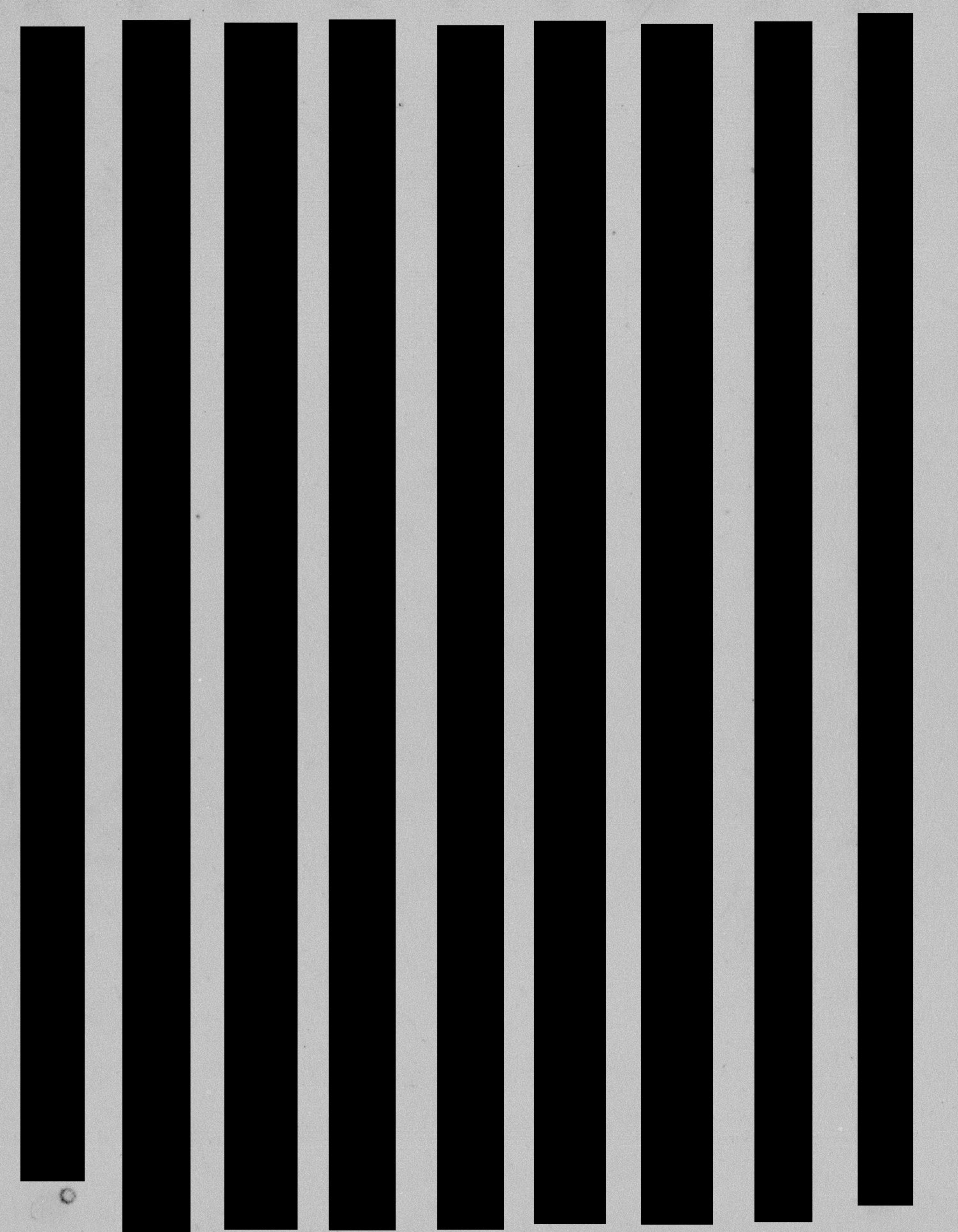


圖書寮

二八

明治二十八年八月

ト。更ニ是ニ於テ神奈川縣葉山ニ滞在セル醫科大學雇



二九

御経過

師どくとる・えるうゐん・べるつヲ召シ拜診セシメ醫齋ト諮ラシムル處アリ。又、十三日ヨリ日本赤十字社病院ヨリ看護婦六名ヲ派セシメ遺漏ナキヲ期ス。爾後、十四日迄ハ藥石ノ效ニ因リ御熱漸次減退セシガ、十五日ヨリ再ビ炎症増進シ、十七日ニハ右肺ニ蔓延シ御病勢進昂ノ虞アリ。御體溫モ亦昇騰シ十八日ニハ四十度二分ニ達ス。然ルニ御高熱數日ニシテ漸次減退シ、二十五日ニハ慢性ノ經過ニ移ラセラルル御模様ニテ、御氣先・御食慾・御睡眠等宜シク總ジテ順調ニ赴カセラレ、九月中頃ヨリハ御體溫常度ニ復シ御體重モ漸ク増加シ給ヒ、益々佳方ニ

圖書寮

三年

天皇深ク憂アラセラ

赴カセララル。サレバ九月二十九日ニ至リ日本赤十字社病院ノ看護婦ヲ廢シ、三十日以後ハ宮内大臣・侍從長・東宮職御用掛及ビ東宮職出仕ノ者ニ謁ヲ許サセラルルニ至レリ。但シ

是ヨリ先、皇太子御遠例ノ趣ヲ奏スルヤ、天皇軫憂アラセラルル事深ク、東宮武官長男爵黒川通軌ニ命ジテどくとる・えるうゐん・べるつニ朝夕ノ拜診ヲ囑セシメ、更ニ御重患ヲ聞召サルルヤ、侍臣ヲ顧ミサセ給ヒテ皇室典範上ノ事ニ關シ、私ニ諮ラセラレタル處アリ。大御心

御達例中ノ
御慰

給フ
撞球ヲ試ミ

ノ程恐懼ニ堪ヘズ。皇后モ亦深ク案ジサセ給ヒ私ニ御祈願アラセラレタル白羽二重ノ御單衣ヲ賜ヒ、或ハ禮典侍柳原愛子・命婦堀川武子ヲ高輪御殿ニ遣シ、御病床ニ奉仕セシメラル。

大患漸次御快復ニ赴カセラレ、九月中頃ヨリ御居間内ノ御運動ヲ試ミ給フ御有様ト成ラセラレタルヲ以テ、日御慰ノ御催アリ。初メノ程ハ幻燈・雅樂ニ、或ハ内庭ニ於テ主馬寮職員ノ乘馬運動ヲ、時ニハ皇宮警察ノ警部・警手ニ擊劍・槍術ノ試合ヲ行ハシメテ台覽ノ事ナドアリシガ、十月十一日ヨリハ御自ラ撞球ヲ試ミ給ヒ、爾後、

圖書寮

御撤床

東宮職出仕ノ者ト共ニ之ヲ樂シマセラル。其ノ他松林伯知・同伯圖等ノ講談ヲ御慰アラセラレタル日モ亦勤カラズ。十一月九日ニ至リ馬車御試乗ヲ行ハセラレ、芝公園ヲ遊覽アラセラルルニ至レリ。斯カル間ニ御病勢自ラ癒エサセラレ、十一月十二日御撤床アリ。午前九時高輪御殿御出門參内、天皇・皇后ニ謁シ病中ノ恩ヲ奏啓、天皇ニ蒔繪御手箱壹個・象牙彫鷄御棚飾壹個・鮮鯛壹折ヲ、皇后ニ蒔繪御手箱壹個・銀彫刻鶴形御香爐壹個・鮮鯛壹折ヲ進獻、天皇ヨリ白金黃金交リ角丸輪振リ形御時計鎖壹條・白羽二重壹疋・文銀壹雙・水入壹個・麻はんけち壹

御達例中ノ
御慰

給
撞球ヲ試ミ

ノ程恐懼ニ堪ヘズ。皇后モ亦深ク案ジサセ給ヒ私ニ御
願アラセラレタル白羽二重ノ御單衣ヲ賜ヒ、或ハ樂典侍
柳原愛子・命婦堀川武子ヲ高輪御殿ニ遣シ、御病床ニ
仕セシメラル。

大患漸次御快復ニ赴カセラレ、九月中頃ヨリ御居間内
ノ御運動ヲ試ミ給フ御有様ト成ラセラレタルヲ以テ、日
日御慰ノ御催アリ。初メノ程ハ幻燈・雅樂ニ、或ハ内庭
ニ於テ主馬寮職員ノ乘馬運動ヲ、時ニハ皇宮警察ノ警部
警手ニ擊劍・槍術ノ試合ヲ行ハシメテ台覽ノ事ナドアリ
シガ、十月十一日ヨリハ御自ラ撞球ヲ試ミ給ヒ、爾後、

御撤床

東宮職出仕ノ者ト共ニ之ヲ樂シマセラレ。其ノ他松林伯
知・同伯圖等ノ講談ヲ御慰アラセラレタル日モ亦尠カラ
ズ。十一月九日ニ至リ馬車御試乗ヲ行ハセラレ、芝公園
ヲ遊覽アラセラルルニ至レリ。斯カル間ニ御病勢自ラ癒
エサセラレ十一月十二日御撤床アリ。午前九時高輪御殿
御出門參内、天皇・皇后ニ謁シ病中ノ恩ヲ奏啓、天皇ニ
蒔繪御手箱壹個・象牙彫鶴御欄飾壹個・鮮鯛壹折ヲ、皇
后ニ蒔繪御手箱壹個・銀彫刻鶴形御香爐壹個・鮮鯛壹折
ヲ進獻、天皇ヨリ白金黃金交リ角丸輪振リ形御時計鎖壹
條・白羽二重壹疋・文領壹雙・水入壹個・麻はんけち壹

打ヲ拜領、十一時四十分還啓アラセラル。後、天皇・皇后、掌侍姉小路良子ヲ遣シ、御臺盛壹臺・鵜卵九十六個・菊盆栽參鉢ヲ賜フ。又青山御所ニハ御使東宮侍從稻葉正繩ヲ遣シ、蒔繪御香合壹個・象牙彫鵜御棚飾壹個・鮮鯛壹折ヲ進獻、御妹宮方ニモ鮮鯛壹折宛ヲ進ゼラル。猶ホ皇太后ヨリハ典侍萬里小路幸子ヲ遣サレ、三種交魚壹折ヲ賜ヒ、御妹宮モ亦御用掛加賀美光賢・同伯爵團基祥ヲ遣サレ、三種交魚壹折宛ヲ進ゼラル。又賢所ニハ鮮鯛壹折・御鈴料五百疋、皇大神宮・豐受大神宮ニ夫々御鈴料金貳拾五圓ヲ供へ御撤床ヲ奉告セシメラル。コノ外、皇

圖書寮

御撤床ノ祝宴

族以下諸臣ニモ贈賜ノ事アリ。尋イデ十一月十七日午後五時宮内大臣子爵土方久元・侍從長侯爵德大寺實則以下御遠例中盡力セシ者四十二名ヲ赤坂離宮ニ召シ、撤床御祝ノ宴ヲ催サセラル。又舊出仕等ニハ高輪御殿ニ於テ祝酒ヲ賜フ。猶ホ御治療其ノ他ニ奉仕セル者ニ物ヲ賜ヒテ其ノ勞ヲ摘ハセラル。東宮侍從長宮武官長日記・侍從職日記・皇后宮職日記・皇太后宮職日記・御直宮御養育掛日記・重要雜錄・官報・拜診錄・桂侍醫摘要

九月十四日、菊麿王、從一位勳一等公爵九條道孝二女鏡子ト結婚ニヨリ、御使東宮侍從伯爵日野資秀ヲ山階宮

三年

東宮職御用掛ヲ増員

東宮侍從ノ更迭

邸ニ遣シ、白縮緬壹疋・三種交魚壹折ヲ賜ヒテ之ヲ祝セラル。王竝ビ妃午後參殿アリシガ、御遠例中ノ爲メ御對面ナク、東宮武官長男爵黒川通軌旨ヲ奉ジテ茶菓ヲ饗ス。東宮侍從長東宮武官長日記

十六日、正三位醍醐忠敬ヲ東宮職御用掛ト爲シ、十月三十日非職第五高等學校助教菱田爲吉ヲ、華イデ十一月十六日更ニ學習院助教坂彪太郎ヲ、十二月二十八日行政裁判所評定官從三位勳一等法學博士箕作麟祥・從六位本居豐顯ヲ東宮職御用掛トナス。總務課進退録・官報

圖書寮

能久親王薨去

九日主獵官從五位大迫貞武及ヒ同正八位前田青莎ヲ、更ニ十二月七日學習院教授從七位丸尾錦作ヲ東宮侍從ニ任ズ。總務課進退録・官報

二十六日、陸軍少將比志島義輝ヨリ獻上セル埃地利國製速射砲ヲ台覽、陸軍歩兵大尉山口正路ヲシテ説明ヲ爲サシム。因ニ砲ハ澎湖島ノ戰ニ於ケル戰利品ナリ。東宮侍從

東宮武官日記

十一月五日、是ヨリ先、豐民鎮定ノ命ヲ奉ジテ臺灣ニ出征セル近衛師團長陸軍中將大勳位能久親王、まらりや病ニ罹リ遂ニ薨エズ。去月二十九日危篤ノ報アリ、翠三

3202 061

三
全

十日東宮侍従前田青沙ヲ北白川宮邸ニ遣シ、更ニ本月四日危篤ノ態ニテ歸京スルニ當リ御使東宮武官橋岡太ヲ新橋停車場ニ遣シ給ヒシガ、是ノ日發喪ニヨリ東宮武官公爵鷹司溥通ヲ御所ニ遣シ、天機竝ビニ皇后・皇太后ノ御機嫌ヲ奉伺セシメ、尋イデ北白川宮邸ヲ弔問セシメラル。十日宮邸ニ於テ故親王棺前祭ヲ行フヲ以テ、御使東宮侍従稻葉正繩ヲシテ代拜セシメ、御供物料金五百圓竝ビニ白羽二重貳疋ヲ供ヘ給フ。十一日國葬ニ際シ東宮侍従前田青沙ヲ豊島岡墓所ニ遣シテ代拜ヲ命ジ、眞神壹對ヲ供ヘシム。

圖書寮

能久親王略

親王ハ邦家親王ノ王子ニシテ、仁孝天皇ノ御養子タリ。夙ニ上野輪王寺ニ入り公現入道親王ト稱ス。維新ノ際朝幕間ニアリテ盡力セシガ、彰義隊ニ擁セラレ敗戦シテ奥州ニ潛行ノ後、謹慎ヲ命ゼラル。維新ノ大業成ルニ及ビ明治二年十月謹慎ヲ解キ伏見宮ニ復歸シ、三年閏十月二十五日勅ニヨリテ有栖川宮邸ニ移リ、尋イデ名ヲ復セシメラル。夫ヨリ普魯西國ニ留學、陸軍ノ兵學ヲ修ム。其ノ間、三品ニ敘セラレ智成親王ノ繼嗣ト爲ル。歸朝後、累進シテ陸軍中將ト爲リ、二十七八年ノ役ニ從ヒ、更ニ臺灣ニ轉ジテ匪賊ヲ擊攘中、偶々病ヲ得テ茲ニ至ル。天皇、

三〇
年

明治二十八年十一月

三八

十日東京侍従前田青沙ヲ北白川宮邸ニ遣シ、更ニ本月日危篤ノ態ニテ歸京スルニ當リ御使東宮武官橋岡太ヲ橋停車場ニ遣シ給ヒシガ、是ノ日發喪ニヨリ東宮武官爵鷹司瀬通ヲ御所ニ遣シ、天機竝ビニ皇后・皇太后ノ機嫌ヲ奉伺セシメ、尋イデ北白川宮邸ヲ弔問セシメラ十日宮邸ニ於テ故親王棺前祭ヲ行フヲ以テ、御使東宮從稻葉正繩ヲシテ代拜セシメ、御供物料金五百圓竝ビ白羽二重貳疋ヲ供ヘ給フ。十一日國葬ニ際シ東宮侍従前田青沙ヲ豐島岡墓所ニ遣シテ代拜ヲ命ジ、眞神壹對ヲヘシム。

圖書

能久親王略
歴

親王ハ邦家親王ノ王子ニシテ、仁孝天皇ノ御養子タ夙ニ上野輪王寺ニ入り公現入道親王ト稱ス。維新ノ際幕間ニアリテ盡力セシガ、彰義隊ニ擁セラレ敗戦シテ州ニ潛行ノ後、謹慎ヲ命ゼラル。維新ノ大業成ルニ及明治二年十月謹慎ヲ解キ伏見宮ニ復歸シ、三年閏十月十五日勅ニヨリテ有栖川宮邸ニ移リ、尋イデ名ヲ復セメラル。夫ヨリ普魯西國ニ留學、陸軍ノ兵學ヲ修ム。ノ間、三品ニ敘セラレ智成親王ノ繼嗣ト爲ル。歸朝後、累シテ陸軍中將ト爲リ、二十七八年ノ役ニ從ヒ、更ニ壽ニ轉ジテ匪賊ヲ擊攘中、偶々病ヲ得テ茲ニ至ル。天皇

明治二十八年十一月

三九

東宮武官ノ
更迭

其ノ功ヲ嘉シ陸軍大將ニ任ジ、菊花章頸飾ヲ加授、功三級ニ叙シ金鷄勳章ヲ授ケ、更ニ國葬ヲ賜フ。東宮侍從東宮武官日記・重要雜錄・官報・能久親王年譜・能久親王事蹟・北白川宮

十三日、東宮武官陸軍砲兵少佐宮本照明・同陸軍歩兵大尉橋岡太ノ本職ヲ免ジ大本營附ニ轉補シ、砲兵射的學校教官陸軍砲兵少佐鶴見數馬・騎兵第四大隊中隊長陸軍騎兵大尉名和長憲ヲ東宮武官ニ轉補ス。後、照明・岡太ニ各々金手釦壹組・軍服地及ビ金圓ヲ賜フ。東宮侍從長日記・官報・贈賜錄・名和長憲履歷・官員進退錄

十七日、午前九時三十分御出門、上野公園ニ行啓、御

圖書寮

東宮侍從長
侯爵中山孝
麿ヲ罷ム

遊歩ノ後、帝國博物館樓上ニ於テ御休憩、十一時五十分還啓アラセラル。東宮侍從長東宮武官長日記・官報・重要雜錄

十八日、東宮侍從長侯爵中山孝麿、本春以來健康勝レザルノ故ヲ以テ願ノ如ク本官ヲ免ジ、病氣全快ノ上ハ、時々東宮御所ニ伺候シ心付ベキ事アラバ申出ツベキ旨ノ御沙汰アリ。尋イデ翌年三月十一日近江八景蔭繪料紙硯箱壹組・紅白羽二重壹疋宛ヲ賜フ。進達書寫・贈賜錄・總務課進退錄・官報

二十四日、午前九時御出門、青山御所ニ參候、尋イデ參内、明日ヨリ葉山御用邸ニ轉地ニツキ請暇ヲ奏啓、午

御保養ノ爲
ノ葉山ニ御
轉地

後零時二十分還啓アラセラル。重要雜録・侍從殿日記・皇太后宮
職日記
官報

二十五日、午前十時三十分御出門、新橋停車場ヨリ汽
車ニ御搭乘、逗子停車場ニ於テ御下車、午後一時十五分
葉山御用邸ニ安著アラセラル。是ヨリ大患後ノ御靜養ヲ
旨トシ、遂ニ年内還啓アラセラレズ。其ノ間、天皇・皇
后・皇太后ヨリ屢々御使アリ、物ヲ拜領アラセラル。時
ニハ御遊歩ニ當リ候爵徳川茂承・公爵岩倉具定等ノ別邸
ニ御立寄ノ事アリ。又時ニハ東宮職御用掛川田剛ニ命ジ、
約一時間以内ノ講話ヲ爲サシメ之ヲ御聽取アリ。

圖書寮

供奉員

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、東宮大夫男
爵黒川通軌・東宮亮足立正聲・東宮侍從稻葉正繩・同大
迫貞武・同前田青莎・東宮武官鶴見數馬・同公爵鷹司澗
通・宮中顧問官男爵橋本綱常・宮内省御用掛伊東方成・
東宮職御用掛醍醐忠敏・同川田剛・侍醫池田謙齋・同岡
玄卿・同伊勢鏡五郎・侍醫局勤務池邊棟三郎・東宮職出
仕北小路清・同甘露寺受長・同海江田幸吉・同建部光麿・
同子爵酒井忠勇・同子爵土屋正直等ナリ。此ノ外侍從子
爵西四辻公業ハ聖旨ニヨリ供奉セリ。行啓録・官報・東
宮侍從長東宮武官
長日記・侍從殿
日録・進退録

3202 065

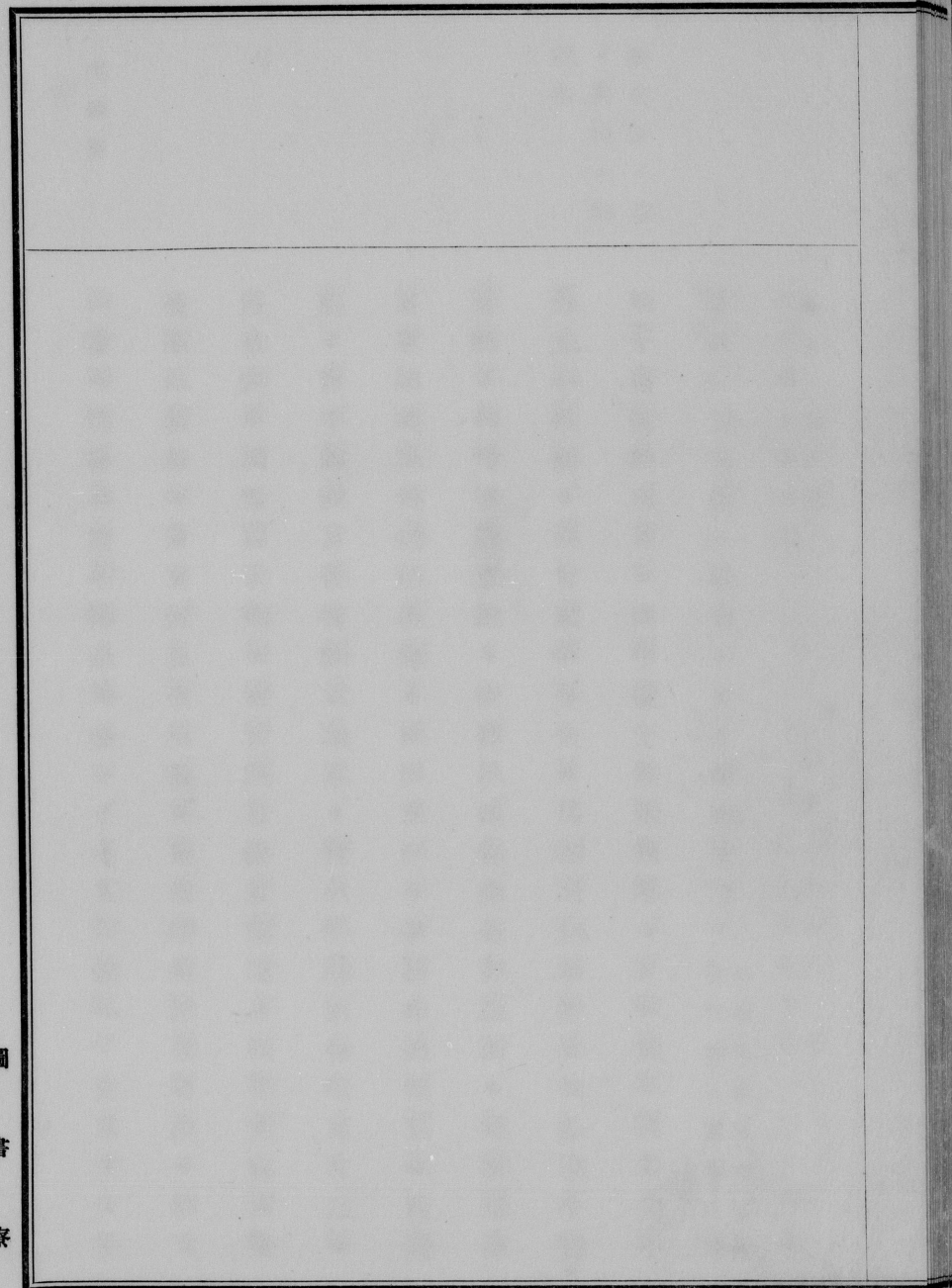
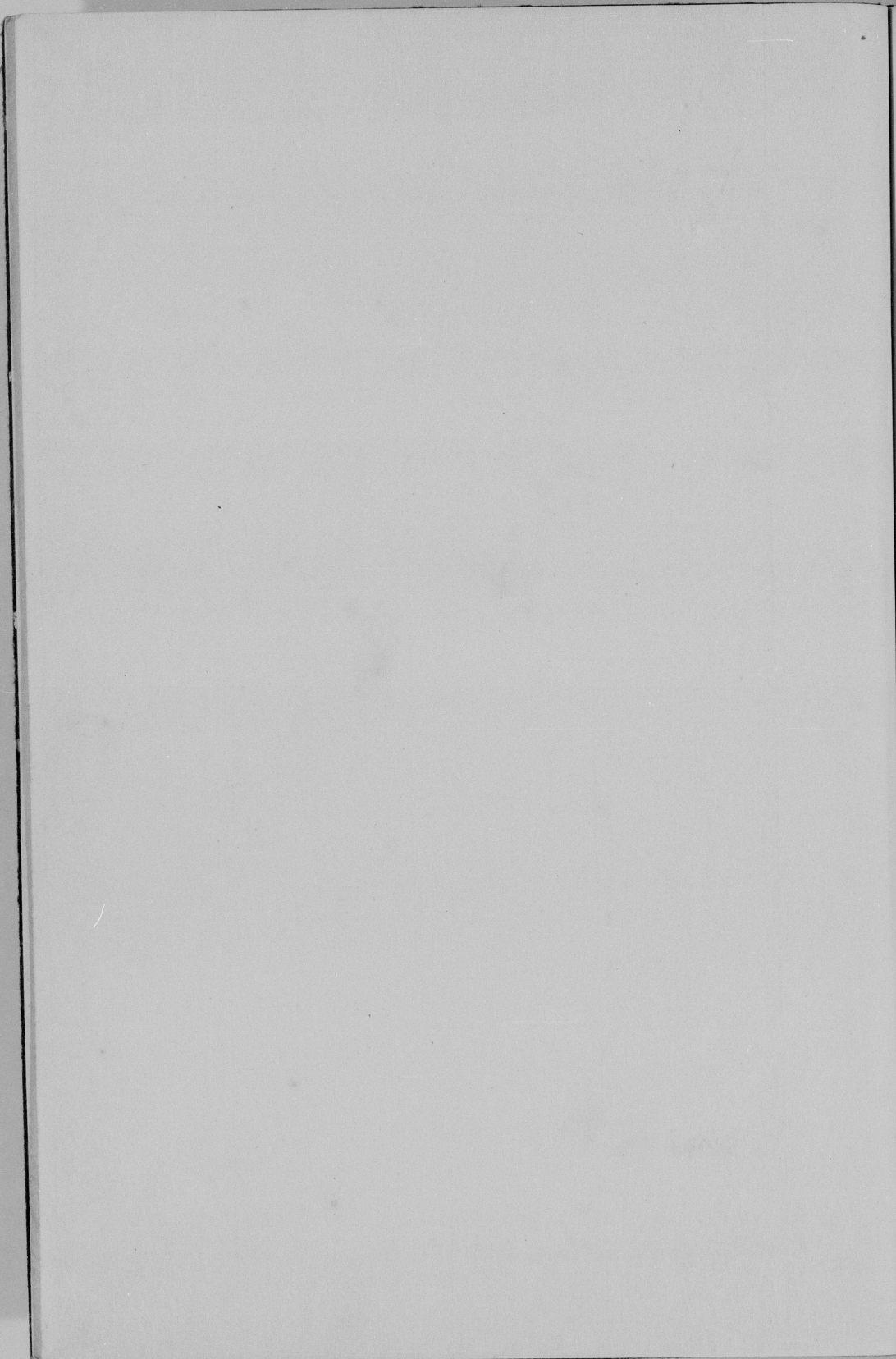


圖
書
寮

3202 066

64047

3202 067

